

科目名	専門分野				ディプロマ・ポリシー(DP)	DP2	DP3	DP4			
	基礎看護学				担当教員	専任教員					
	生活支援技術										
履修学年	1年	履修学期	前期	単位数	1	時間数	4 4				
授業目標	1. 生命力の消耗を最小にする安全・安楽に配慮した生活の援助技術ができる 2. 五感に働きかける技術の意味がわかる 3. 生活支援技術がもつ効果を活かす技術がわかる										
回	学習内容				方法	担当教員					
1 2	1) パフォーマンス課題の導入 (1) 課題Ⅰ「生命の消耗を最小にする安全・安楽に配慮した清潔の援助」 (2) 課題Ⅱ「生活支援技術が持つ効果を活かす技術」 2) 看護師が行う環境調整（環境調整と回復促進への援助技術）				講義 演習	専任教員					
3	3) 生活行動に必要な活動を考える（事例検討：安静を促すうえでの見極めを理解し、対象の状態に応じた支援を考える） 4) 生活に支障をきたす「苦痛」を緩和する安楽への援助を考える（事例検討：対象の状態に応じた支援を考える／体位変換・保持）				講義 演習						
4	5) ひとが生活するための「眠る」を支援する (1) 休息に必要なアセスメントの視点と患者のニーズを捉える				講義 演習						
5	(2) 患者のニーズをふまえた休息への援助の実践										
6	6) ひとが生活するための「お風呂に入る」を支援する (1) 清潔援助に必要なアセスメントの視点と患者のニーズを捉える				講義 演習						
7	(2) 患者のニーズをふまえた清潔援助（清拭・部分浴）の実践										
8	(3) 患者のニーズをふまえた清潔援助（洗髪）の実践										
9	(4) 患者のニーズをふまえた清潔援助（衣生活）の実践（点滴・ドレーン留置している患者）										
10	パフォーマンス課題Ⅰ ・事例患者のニーズを捉え、対象への援助を考える				講義						
11・12	・ルーブリック評価に沿った、技術演習				演習						
13	パフォーマンス課題Ⅰ 技術試験 *時間外演習 6時間				技術試験						
14	7) ひとが生活するための「食べる」を支援する (1) 食事援助に必要なアセスメントの視点と患者のニーズを捉える				講義 演習						
15	(2) 患者のニーズをふまえた食事への援助の実践										
16	(3) 経口摂取が困難な患者への看護技術の実践（経管胃チューブの挿入・経管栄養法の流動食の注入時の留意点）										
17	8) ひとが生活するための「トイレに行く」を支援する (1) 排泄援助に必要なアセスメントの視点と患者のニーズを捉える				講義 演習						
18	(2) 事例患者のニーズをふまえた排泄援助を実践から考える										
19	(3) 排泄が困難な患者への看護技術を実践から考える（導尿、膀胱留置カテーテルの管理／浣腸、摘便技術／陰部の保清）										
20	パフォーマンス課題Ⅱ/グループまとめ・演習				演習						
21・22	パフォーマンス課題Ⅱ/発表				演習						
評価規準 評価方法	技術試験・パフォーマンス課題・筆記試験 100点										
テキストおよび 参考文献	専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 第4版 看護形態機能学（日本看護協会出版会） 新版 ナイチンゲール看護論・入門（現代社） 実践を創る 新・看護学原論（現代社）										
履修上の 注意点	観察技術の科目履修は、基礎看護学実習に行く条件である。										